

生活定点2010 分析サマリー・レポート

生活変化の3大潮流

生活総研

本資料について

博報堂生活総合研究所では、生活者の意識や行動の変化から将来の価値観や欲求の行方を予測するための時系列調査「生活定点」を2年に1度、実施しています。生活を360度の視野で捉える質問は、衣食住、健康、学び、家族、贈答、消費・お金、情報など約1500項目にも及ぶもので、どんな業種・テーマの業務にも活用できます。

1992年の調査開始から最新の2010年まで、バブル崩壊、失われた10年、世界同時不況、政治不安、地球環境問題など、生活者の気分を暗くする出来事が相次いでいます。しかし、今回の分析では、こうしたマクロの重圧に負けず、暮らしに元気を取り戻すための【生活変化の3大潮流】が見えてきました。

「生活定点」調査設計

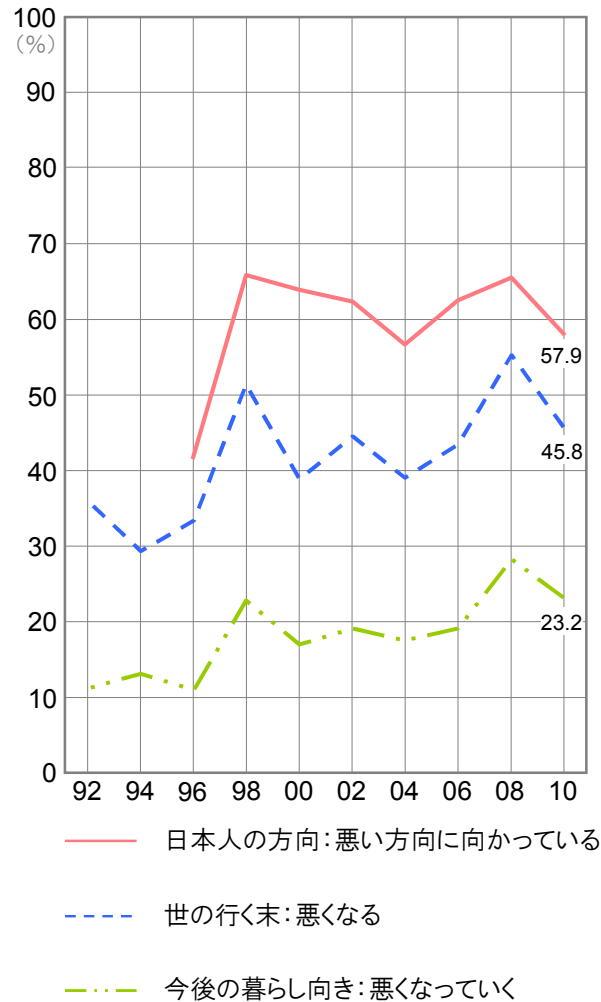
- 調査地域：首都40km圏、阪神30km圏
- 調査対象：20歳～69歳の男女
- サンプル数：[国勢調査の年齢構成比で割付]

1992年	1,976人	2006年	3,293人
1994年-2002年	2,000人	2008年	3,371人
2004年	3,105人	2010年	3,389人
- サンプリング：地点抽出によるエリアサンプリング
- 調査方法：訪問留置自記入法
- 調査時期：偶数年5月（2010年：5/11-5/31）

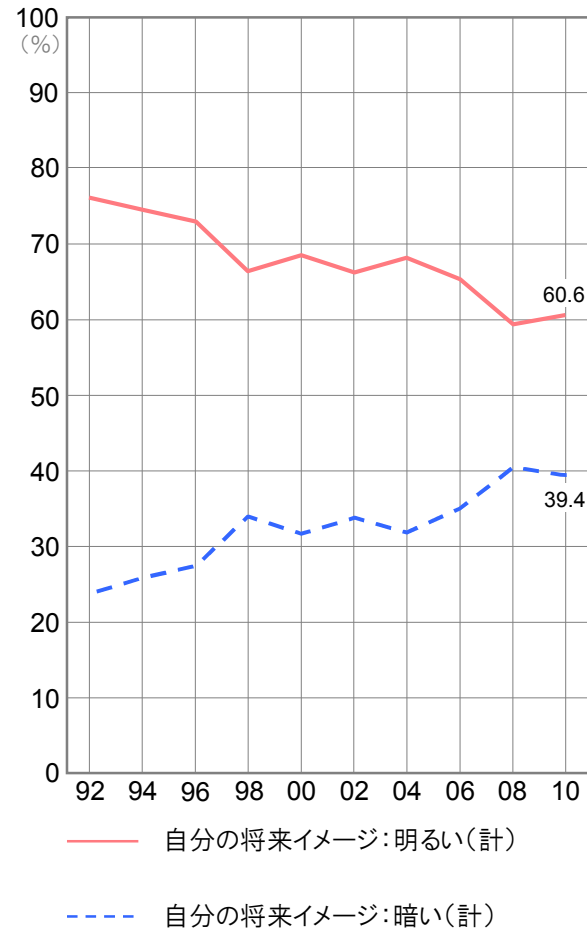
前提となる生活気分

生活者の気分は長らく下降傾向にありましたが、2010年、ようやく気分の落ち込みに歯止めがかかりました。次頁以降、気分の下げ止まりの背景にある【生活変化の3大潮流】を順にご紹介していきます。

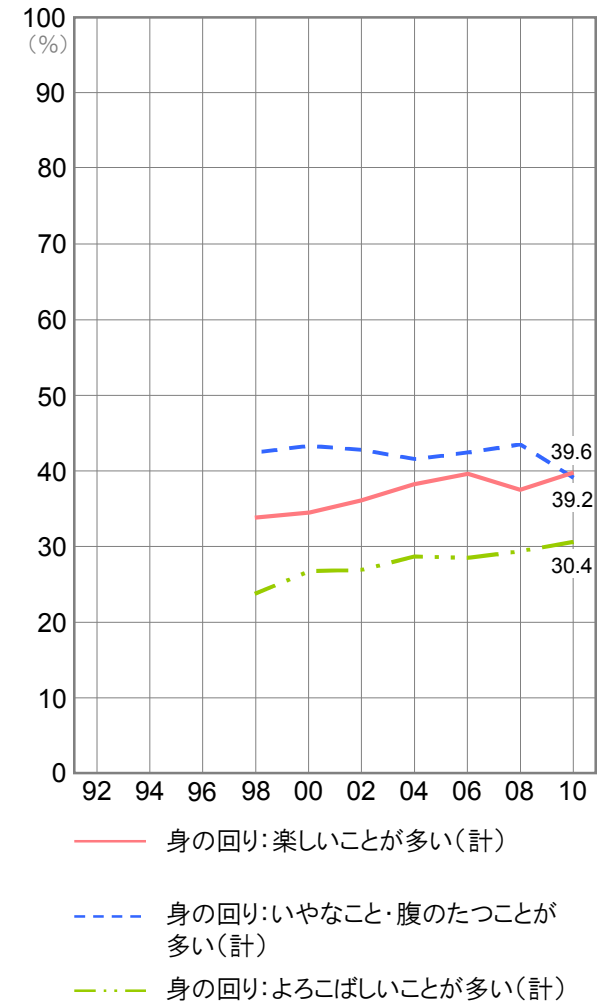
ネガティブ気分、
減退に転じる。



将来を憂う気持ちも、
和らげられました。



楽しいこと、よろこばしい
ことが増加中。

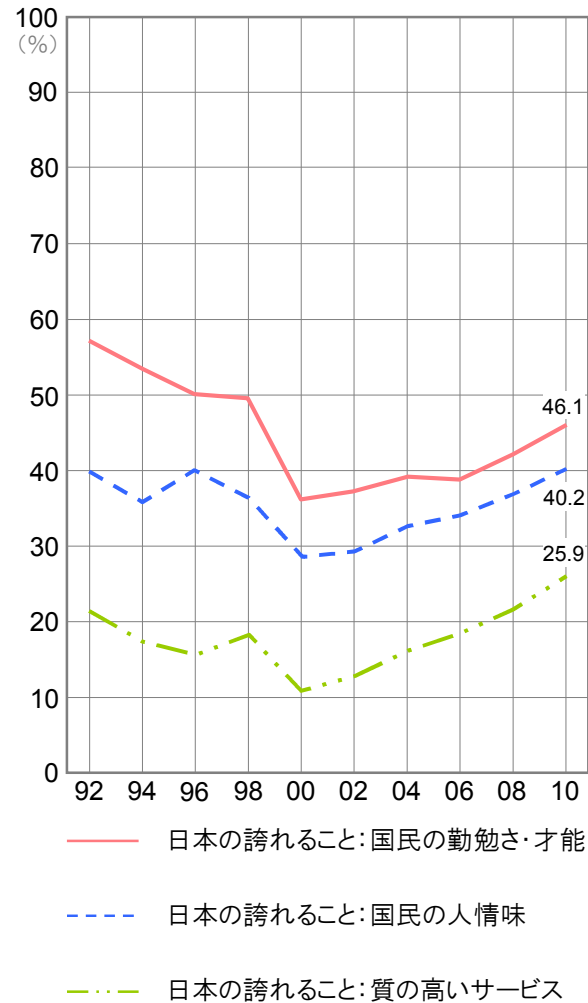


潮流① ニッポン温故知新

生活者は、日本に元来あった古き資産に目を向け始めました。これまで見過ごしていた貴重な資産を発掘し、それらを新たに再編して活かすことで、厳しい時代を乗り切ろうとしています。

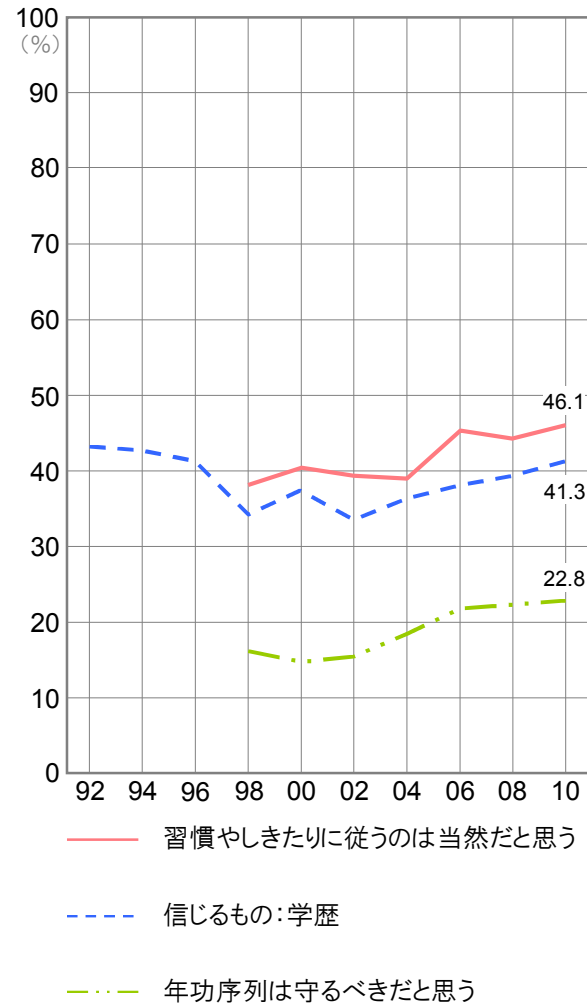
人力自信が回復

日本人ならではの才能や能力、素養など、人々に内在する力への自信が回復しています。



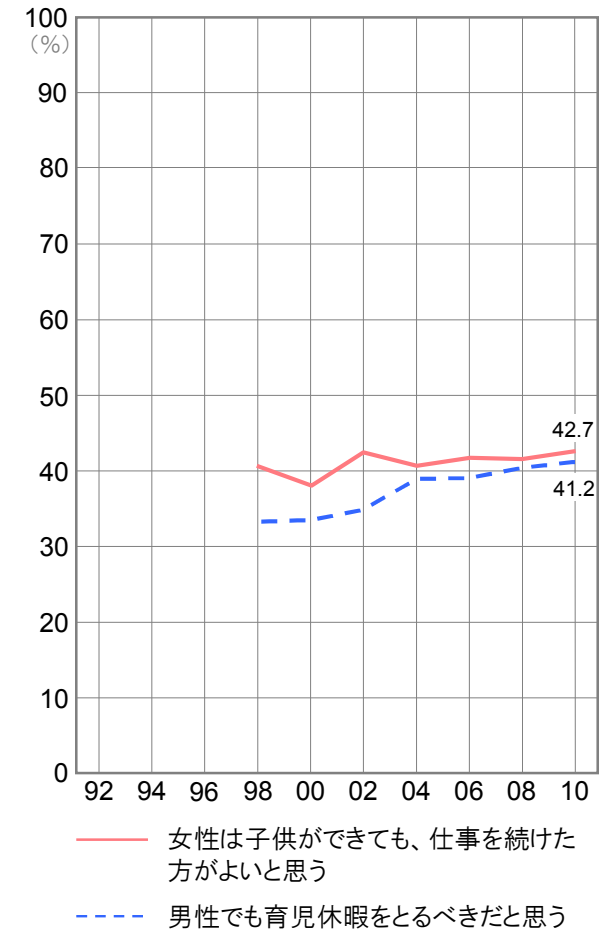
知のリノベーション

昔からの習慣やしきたり、やり方といった知恵を修復して活かそうとする意識が高まっています。



共闘する家族

かつて老若男女が家族総出で働いた頃のように、家族が協力して、生活を防衛しようとしています。

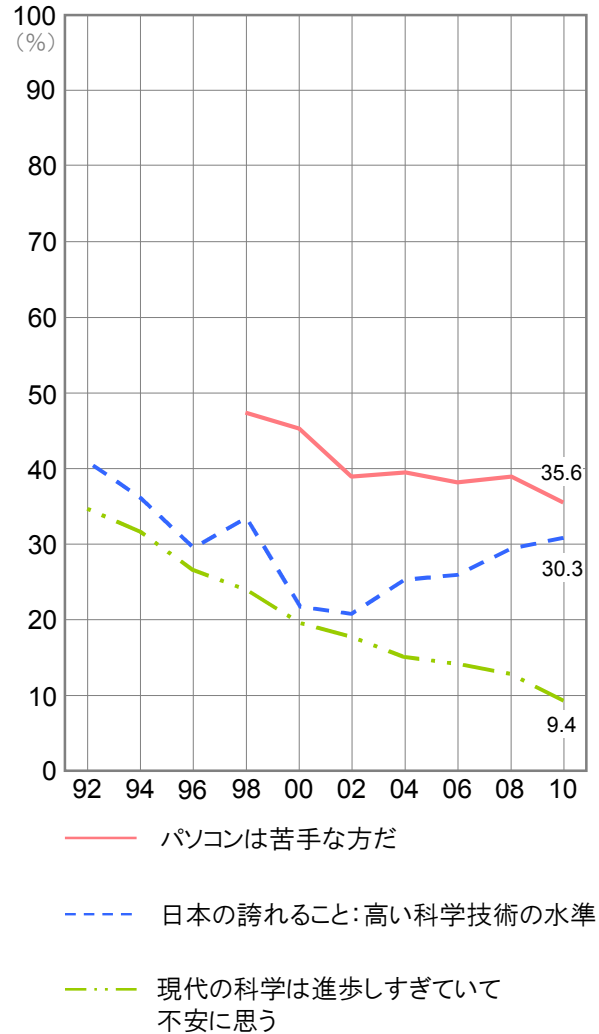


潮流② 理系生活

科学技術の発展により、生活者に次々と提供される先進的なモノやサービス、システム。生活者はそれらを上手に生活に取り入れ、自らの行動も変えていくことで、ライフスタイルを進化させています。

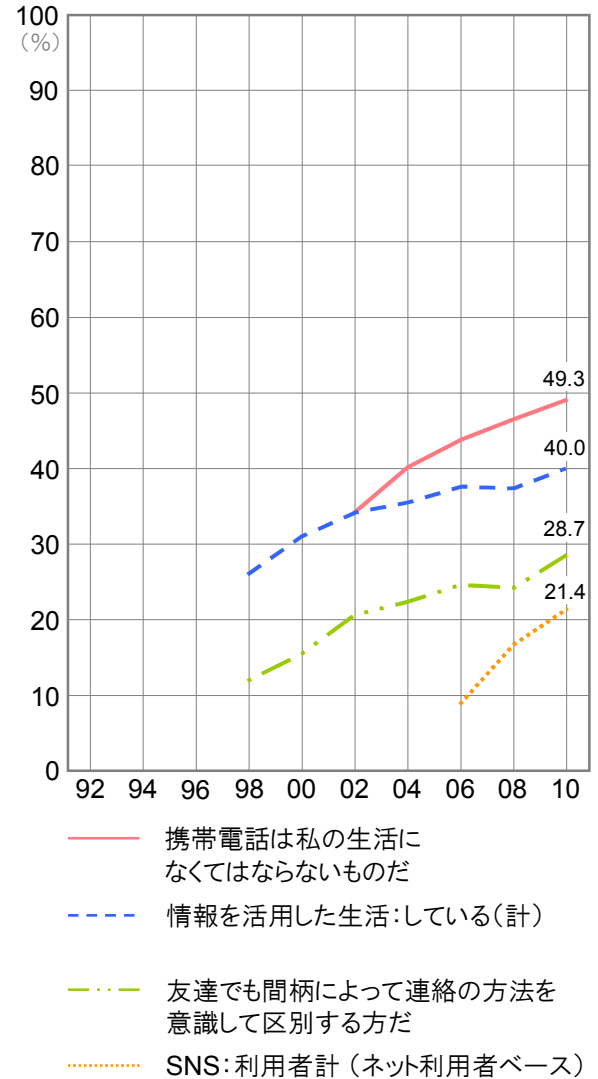
科学アレルギー減少

高性能でも簡単操作の家電など、やさしい商品の増加も手伝い、科学アレルギーは減少中です。



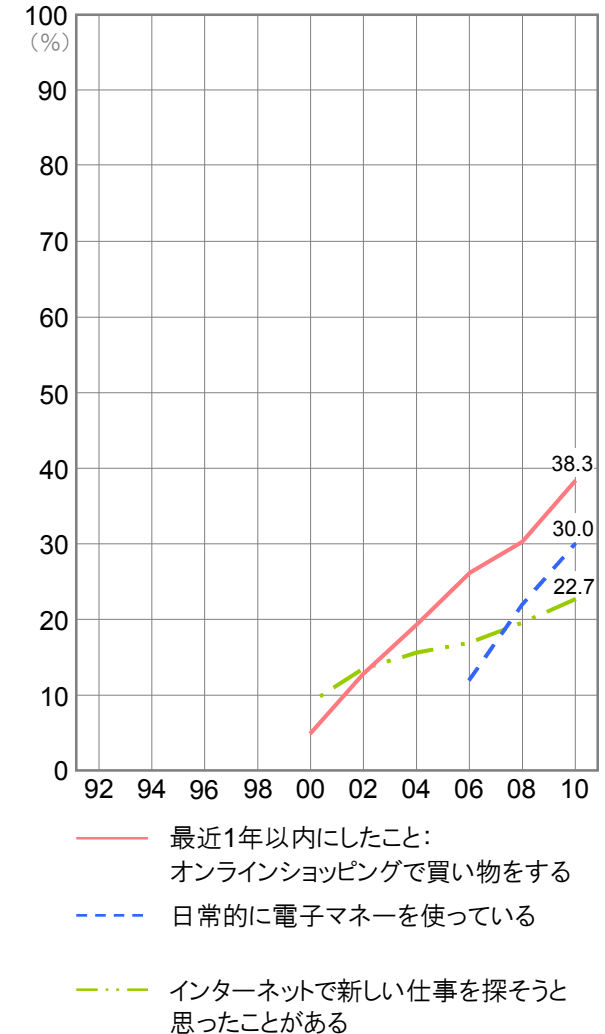
接続上手

整備が進んだ情報環境。生活者は上手にネットワークに接続し、情報を使いこなしています。



スマートな暮らしへ

生活者は電子社会を受け入れ、様々な生活行動を手軽で便利なものへと変えつつあります。

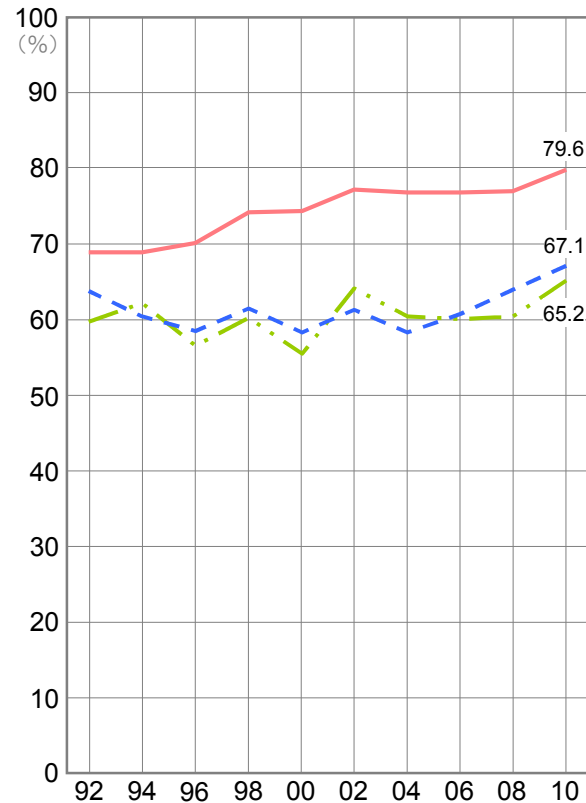


潮流③ ソーシャリング

日本の社会全体が揺らいでいます。その揺らぎは、そこに住む生活者一人ひとりをも揺るがします。だからこそ、揺らぎを鎮めるために生活者自身が協力し合い、安心できる社会を作ろうとしています。

高まる俯瞰力

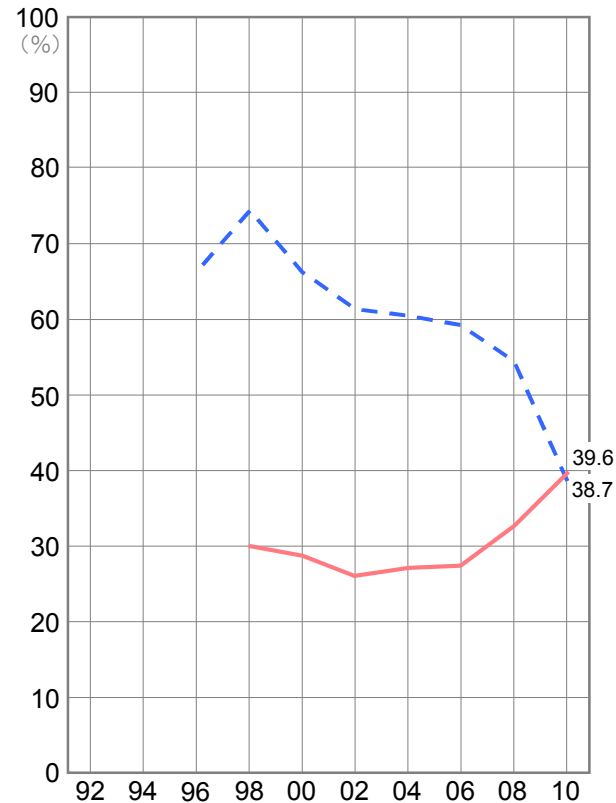
個人よりも日本。生活者の視点は広がり、社会全体を俯瞰する能力が高まっています。



- 日本人は、国や社会のことにもっと目を向けるべきだと思う
- - - 個人利益を犠牲にしても、国民利益を第一に考えるべきだと思う
- ⋯ 日本政治・経済に関心がある

利己から利他へ

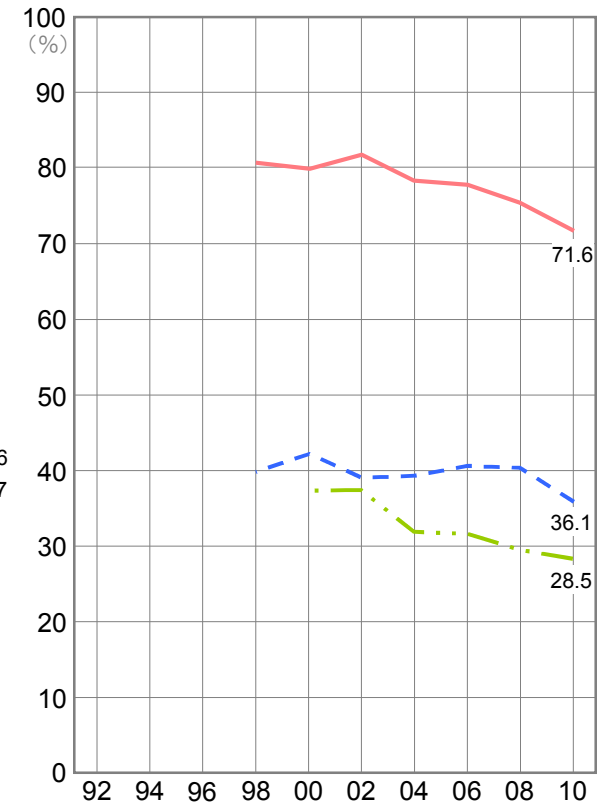
多少の痛みはあれど、みんなが助け合い、住みよい社会を作るべきという意識が上昇しています。



- 多少、税金が高くなっても福祉を充実させるべきだと思う
- - - 今の税金は高すぎると思う
- ⋯ 日本政治・経済に関心がある

国際順応

国際化を実感することが増えた日常。生活者は日本を訪れる外国人に順応し始めました。



- 国際化による影響：事故や犯罪が増えると思う
- - - 国際化による影響：日本人のマナーが悪くなると思う
- ⋯ 国際化による影響：人種問題などのいざこざが増えると思う

まとめ：生活変化の全体構造

日本から世界、経済から生活全般へ。深刻化するマクロの重圧が生活者を圧迫。

92年のバブル崩壊以降、失われた10年と言われた日本。下がり続ける株価・地価、大企業神話の崩壊、失業率の上昇など、厚い経済の暗雲が立ちこめ、生活者の気分に影を落としていました。さらに、00年以降、アメリカ同時多発テロ、食の安全問題、世界同時不況、国際的な疾病の流行、地球環境問題など、日本の経済問題だけに留まらない、世界全体の生活全般に関わるマクロ問題の重圧が生活者を不安にさせています。

重圧に負けないために生活を変化させることで、気分を浮上させている生活者。

しかし、今回の分析では、こうした重圧による暗い気分に押しつぶされないよう、生活者が暮らしを変化させていることがわかりました。「ニッポン温故知新」「理系生活」「ソーシャリング」という生活変化の3大潮流です。これらの源には、生活者が厳しい今を生き抜くために身につけた3つの力があります。「日本の資産を見直す力」「先端技術を活かす力」「人や社会と繋がる力」の3つの力は、マクロ不安の重圧に対抗するための浮力となっています。

ホバリング^(※)の結果、身の回りには、「楽しいこと」や「よろこばしいこと」が増加中。

気分をネガティブに落ち込ませようとするマクロの重圧に対して、3つの浮力を駆使して、ポジティブに気持ちを引き上げようとする生活者。生活総研では、暮らしに明るさを取り戻そうと努力する生活者の現状を「ホバリングする生活者」と名付けました。こうした懸命なホバリングの結果として、冒頭(2ページ)の「前提となる生活気分」で見られたように、生活者の身の回りの生活には、「楽しいこと」や「よろこばしいこと」が増えてきています。

(※)ホバリング【hovering】 宇宙遊泳。大空遊泳。ヘリコプターやハチドリなどの空中停止。[集英社imidas] ヘリコプターなどが空中で停止飛行すること。[小学館デジタル大辞林] 中性浮力を取り、ある一定の深さで静かに浮いていること。安全停止や減圧停止時の必須スキル。[kotobank]

